

能「藤戸」の鑑賞用ワークシートの開発

西脇 藍*1 須谷 弥生*2

要 旨

本稿の目的は、倉敷市の小学校第6学年の児童が音楽科の伝統音楽の学習において、地域題材である能「藤戸」を鑑賞する際に用いることができるワークシートを開発することである。平成29年に改訂された学習指導要領には、我が国の郷土の音楽、和楽器の指導の充実や、学習評価の改善が盛り込まれた。伝統音楽の鑑賞活動の特徴とこれまでの評価活動に関して指摘されてきた課題を踏まえると、単元終了後や学期末のペーパーテストではなく、指導と一体化した各時間での記述や発表、意見の交流などの方法を用いた評価の在り方を検討する必要があると言える。そこで本稿では、能「藤戸」の鑑賞の視点を具体的に示しながら、児童が単元のまとまりを通して学びを積み重ねることができるワークシートを開発した。

Keywords : 鑑賞, 能, 「藤戸」, 評価, ワークシート
view, Noh, Fujito, assessment, worksheet

1. はじめに

平成29年に改訂された小学校学習指導要領では、教育内容の主な改善事項の一つに伝統や文化に関する教育の充実が盛り込まれた。音楽に関しては、「わが国や郷土の音楽、和楽器」の指導の充実が求められている¹。

また、学習評価の改善については、第1章総則の第3教育課程の実施と学習評価に、学習評価の充実について新たな項目が記された。具体的には、以下の2点が示されている。「(1) 児童のよい点や進捗の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。(2) 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること²」。

このような改訂がなされた背景には、学習評価について指摘されている以下のような課題がある。「学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。現行の『関心・意欲・態度』の観点について、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない。教師によって評価の

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

*2 川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科

方針が異なり、学習改善につなげにくい。教師が評価のための『記録』に労力を割かれて、指導に注力できない。相当な労力をかけて記述した指導要録が、次学年や次学校段階において十分に活用されていない³。

こうした課題が指摘される中、平成29年に改訂された学習指導要領では、評価に関して次のような基本的な考え方が示された。「評価に当たっては、いわゆる評価のための評価に終わることなく、教師が児童のよい点や進捗の状況などを積極的に評価し、児童が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることで、自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるように、評価を行うことが大切である⁴」。このような方向で評価するためには、単元の終了後や学期末に行われるペーパーテスト以外の様々な手法を用いることが期待されている。学習指導要領解説の総則編には、「資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動を評価の対象とし、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である⁵」、と記されている。

指導の充実が求められている伝統音楽は、学習評価の充実も併せて図ることが重要な課題であると言える。特に、伝統音楽の鑑賞の学習成果は、ペーパーテストで測ることができないため、論述や発表、意見の交流などを通して行う必要がある。能の鑑賞後に感想文を書かせている実践はあるが⁶、伝統音楽に関しては何に注目して鑑賞をするのか、そしてその鑑賞を児童がどのように表現しそれをどのように評価するのか、といった点も、専門的知見を踏まえながら検討していくことが求められる。そこで本稿では、能の研究成果を踏まえた鑑賞の視点をもとに、能鑑賞のためのワークシートを開発することを目的とする。題材としては地域の題材を生かすという視点から⁷、倉敷市児島が舞台となった「藤戸」を取り上げることとする。

2. 鑑賞について

2.1 鑑賞の目標

音楽科全体目標を踏まえ、第5学年及び第6学年の目標は、「(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。(2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。(3) 主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う⁸」、と設定されている。特に、第5学年及び第6学年の鑑賞活動については、「ア鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。イ曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること⁹」、とある。また、表現と鑑賞の共通事項として「ア音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと

感じ取ったこととの関わりについて考えること。イ音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること¹⁰⁾が挙げられている。

古典芸能の一つである能は、第3節でも論じる通り、謡や楽器の演奏のみならず、舞、面や衣装なども見どころとして挙げるができる総合芸術である。鑑賞活動に際しては、舞、面や衣装といった視覚的な鑑賞のみならず、曲想の変化と物語の展開の関連にも着目しながら鑑賞できることが期待される。具体的には、物語の展開に応じてどのような楽器が用いられているか、それによって舞台全体でどのような雰囲気が醸し出されているか、といったことに着目できるよう、工夫することが求められる。

2.2 鑑賞の内容の取扱いに関する配慮事項

学習指導要領には、伝統音楽の鑑賞について、以下のような内容の取り扱いに関する留意点が示されている。「(3) 我が国や郷土の音楽の指導に当たっては、そのよさなどを感じ取って表現したり鑑賞したりできるよう、音源や楽譜等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方などの指導方法を工夫すること¹¹⁾」。この点について、具体的には、学習指導要領の解説音楽編に次のように記されている。「我が国や郷土の音楽は、主に口承されてきたり、人々の生活や文化と関わって伝承されてきたりしたという特性がある。指導に当たっては、このような特性を踏まえて、知識や技能の習得に偏ることなく、そのよさを十分に感じ取って表現したり鑑賞したりできるよう、指導方法を工夫することが重要となる¹²⁾」。伝統音楽の鑑賞に際しては、知識の教授に留まることなくその音楽が持つ特有の雰囲気や音の響きに注目することが重要である。特に伝統音楽は、多くの児童にとって馴染みの薄いものであるため、題材のよさや面白さを言葉で論理的に説明する活動ではなく、それぞれがよいと思った事柄について自分なりの方法で表現したり、他者との交流を通して感じ方や表現の仕方の違いを味わったりすることができるよう、指導を工夫することが求められると考える。

では、自分なりの方法での表現とはどのようなことが考えられるだろうか。鑑賞一般に関しては、次のように記されている。「(7) 各学年の『B 鑑賞』の指導に当たっては、言葉などで表す活動を取り入れ、曲想と音楽の構造との関わりについて気付いたり理解したり、曲や演奏の楽しさやよさなどを見いだしたりすることができるよう指導を工夫すること¹³⁾」。ここで「言葉など」と記されている点に着目したい。学習指導要領の解説音楽編には、次のように説明されている。「児童が鑑賞の学習を深めるためには、音楽を聴いて感じ取ったことなどを言葉などで表すことが必要である。言葉などで表すことで、曲の特徴について理解したり、曲や演奏のよさなどについて考えたりする学習が深まっていくのである。言葉などで表す活動には、絵や図で表したり、体の動きに置き換えて表したりするなど、広義の言語活動が含まれる。児童が、心の中に描いた様々な情景や様子、気持ちなど想像したことや感じ取ったことを、言葉や体の動き、絵や図で表すなどして教師や友達などに伝えようとすることは、友達の感じ方や考え方等のよさに気付いたり共感したり、自分の感じ方や考え方等

を一層広げたりすることにもつながるものである¹⁴。特に能は、セリフや謡の詞章が室町時代の日本語であることから、現代の我々にとっては馴染みのないいわゆる古文であり、聞いただけでは物語の内容を理解することが難しい。学習指導要領解説音楽編にあったように、知識や技能の習得に偏ることなく、そのよさなどを十分に感じ取って表現したり鑑賞したりできるようにするには、言葉での記述のみならず、描画によって感じたよさなどを表現する活動も必要である。また、能を鑑賞するだけでなく、実際に舞や謡や楽器の演奏を体験することにより、実感を伴った鑑賞活動ができるよう工夫することも想定される。

3. 能の鑑賞指導

3.1 能「藤戸」の鑑賞の視点

現在、能の現行曲は約 250 曲ある。「藤戸」は現在まで演じられ、能愛好者の中で親しまれている演目の一つである。「藤戸」は、能の特徴的なストーリー展開の一つであり他の演劇には見られない形である夢幻能（亡者の幽霊や、鬼、神など、現実の人間ではないものが夢のなかに現れて、その場所に関わる物語を聞かせたり、舞ったりする）である。その能の典型的な流れを味わい、鑑賞できるよう指導したい。特に「藤戸」は、前半と後半で主人公が漁師の母（女性、生者）から漁師の亡霊（男性、亡者）へと性別も役どころも大きく変わるため、それぞれの「謡」「舞」そして「面・衣装」の変化に着目するよう促したい。そのことで、動きや身に付けているものが登場人物の性格や心情を表していることを理解できるようにすることにより、言葉やストーリーを追うだけでなく、視覚や聴覚を使って能の内容を感じ取ることができるように指導したい。

「藤戸」には、能の囃子を構成している楽器のすべてが登場することから（笛・小鼓・大鼓・太鼓。合わせて四拍子と呼ぶ）、我が国の主要な伝統的和楽器それぞれの音色の違いや物語の進行と演奏の関連性について味わうことが可能である。さらに、能と西洋音楽に代表されるクラシック音楽やオペラなどを比較すると、能には指揮者がいないという特徴がある。能では、お互いの呼吸や間合いを感じ取って演奏しているのであり、その独特な演奏方法もまた我が国の伝統音楽の特徴の一つであることを伝えたい。

能「藤戸」の舞台となった地点（倉敷市児島）は現在陸地であるが、物語によると昔はその地点は海であった。かつての地理的状況、そして歴史の教科書にも出てくる源平の争乱の舞台となったことを説明することで、郷土の地理歴史に思いを馳せながら鑑賞することも可能である。

3.2 観点別評価基準

第2節で記した学習指導要領の要点と、第3節の1で記した能「藤戸」の鑑賞の視点を踏まえ、表1のような観点別評価基準を提案する。

表 1 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
能の特徴（謡、楽器の音色、舞、面、衣装）とその背景となる文化や地理、歴史について理解している。	能を形作っている要素と、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、作品の面白さやよさを自分なりに表現している。	能特有の演出や物語性、面や衣装などの美術、謡や和楽器の音色や節回し、舞の動きなどに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3.3 指導案

上記を踏まえ、全3時間で構想した能「藤戸」の鑑賞の授業の指導案を表2に示す。

表 2 指導案

時	学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1	<p>1. 藤戸饅頭を食べる。 藤戸饅頭のお菓子の由来について聞く。藤戸は昔海だったことを知る。</p> <p>2. 紙芝居で藤戸のストーリーを知る。</p> <p>3. 能の基本的な事柄について知る。</p> <p>4. 「藤戸」の前半「佐々木盛綱が漁師の母に責められついに罪を告白し、供養することを約束するシーン」を鑑賞する。</p> <p>5. 能の所作を体験する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段食べているお菓子を取り上げるにより、「藤戸」の作品への興味関心を高める。 ・地図に色を塗って示すことで、藤戸の位置を視覚的に理解できるようにする。 ・パワーポイントで作成した紙芝居を用いることで、物語の内容を視覚的に理解できるようにする。 ・面、衣装、舞、舞台の特徴について説明する。 ・死者が出てきて生前のことを語りそして消えてゆく形式は「夢幻能」と呼ばれることを説明する。 ・盛綱と母の衣装とお面、舞に着目して鑑賞できるようなワークシートを用意する。 ・言葉でうまく表現できない児童には絵などで表現するよう声をかける。 ・体験を通して、より深く作品について理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の身近なものを通じて作品に興味を持っている。[主体的に取り組む態度](行動観察) ・演奏と物語の内容、登場人物の動きの関りとその特徴(面、衣装、舞、楽器の音色)を自分なりに表現している。[表現](ワークシート) ・能独特の体の動きを体感的に理解している。[技能](行動観察・ワークシート)

2	<p>4. 前時の復習として能クイズに答える.</p> <p>2. 「藤戸」の後半「漁師の亡霊が佐々木盛綱に殺された場面を再現してみせて、成仏するシーン」を鑑賞する.</p> <p>3. 使用されていた楽器を知り、体験する。(笛, 太鼓, 大鼓)</p> <p>4. 謡を体験する.</p>	<p>・前半で母親役を演じていた人が後半では漁師役を演じることを説明することで、能は前半と後半で同じ役者が別の役(多くは前半の人物は後半の役の化身。「藤戸」のように全く別人であることもある)を演じるのが特徴であることを伝える.</p> <p>・演奏する楽器に太鼓が加わったことで雰囲気を変化したことに気づくことができるよう、問いかける.</p> <p>・体験を通して、作品についてより深く理解できるようにする.</p> <p>・体験を通して、作品についてより深く理解できるようにする.</p>	<p>・物語の内容と楽器演奏などによって作られた雰囲気の違いを感じ取り、自分なりに表現している. [表現] (ワークシート)</p> <p>・能で使用される楽器と謡の特徴を体感的に理解している. [技能] (行動観察・ワークシート)</p>
3	<p>1. 「藤戸」の紙芝居をもう一度見て、これまでの学びを復習する.</p> <p>2. 「藤戸」の鑑賞 (1) 「藤戸」の盛綱, 母, 漁師の亡霊のそれぞれ一部分を鑑賞する. (2) 興味を持ったものを選び、選んだ理由を書く.</p> <p>3. 地域の伝統を守り継ぐことについて考え、「藤戸」の紹介文を作る.</p> <p>4. グループになり、紹介文を発表する.</p>	<p>・物語の内容を振り返ることにより、面や衣装, 謡, 楽器, 舞など様々な要素に着目して鑑賞できるようにする.</p> <p>・役によって面, 衣装, 謡い方, 舞い方が異なることを感じ取ることができるように問いかけをする.</p> <p>・楽器が増加することによる演出の違いを感じ取ることができるように促す.</p> <p>・自分たちの地域の伝統を守り継ごうとする意欲につながるようにする.</p>	<p>・役によって面, 衣装, 謡い方, 舞い方が異なること, 楽器の演奏によって雰囲気が変化することを感じ取り、そのよさや面白さを自分なりに表現している. [表現] (ワークシート)</p> <p>・能「藤戸」の鑑賞を通して興味を持ったこと自分なりのことばで表現しようとしている. [表現] (ワークシート)</p> <p>・同じ作品を鑑賞しても人によって感じ方の違いなどがあることを理解し、友達の発表に耳を傾けている. [主体的に取り組む態度] (行動観察)</p>

4. 能の鑑賞のワークシート

第3節で示した鑑賞の視点を踏まえて、1～3時を通じて使用できるワークシートを作成した。ワークシートの作成にあたっては、3時間の学習内容を概観できるようA3の1枚ものを作成した。

<p>能「藤戸」を鑑賞しよう</p> <p>年 組 番 名前</p> <p>月 日 () 「藤戸」を鑑賞しよう①</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>佐々木盛綱（ささき もりつな）は漁師の母に責められて、自分の罪をみとめます。そして、漁師のれいのために おいのりすることを約束します。</p></div> <p>1. 面、衣装、舞、謡、楽器の音色に注目して、言葉や絵で感じたことを書きましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td style="width: 50%; padding: 5px;">盛綱（もりつな）はどのような様子ですか。</td><td style="width: 50%; padding: 5px;">漁師の母はどのような様子ですか。</td></tr><tr><td style="height: 100px;"></td><td style="height: 100px;"></td></tr></table> <p>2. 能の動きを体験して感じたことを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%; margin-top: 10px;"></div> <hr/> <p style="text-align: center;">月 日 () 「藤戸」を鑑賞しよう②</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>漁師のれいは、盛綱（もりつな）に殺された時のことを再現します。盛綱がおいのりをすると、漁師のれいは成仏します。</p></div> <p>1. 太鼓が加わったことで、2. 楽器と謡を体験して感じたことを</p> <p style="text-align: center;">どのように雰囲気の変化しましたか。 言葉や絵で書きましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td style="width: 50%; height: 100px;"></td><td style="width: 50%; height: 100px;"></td></tr></table>		盛綱（もりつな）はどのような様子ですか。	漁師の母はどのような様子ですか。				
盛綱（もりつな）はどのような様子ですか。	漁師の母はどのような様子ですか。						

図1 ワークシート①（A3で印刷した場合の左面）

月 日 () 「藤戸」を鑑賞しよう③

1. 「藤戸」を見て、興味を持ったものを一つ選び○で囲みましょう。

能面 ・ 衣装 ・ 楽器 ・ 舞 ・ 謡

2. 選んだ理由を書きましょう。

3. 藤戸へ来た人に能「藤戸」の気に入ったところをしょうかいしましょう。

図2 ワークシート② (A3で印刷した場合の右面)

5. まとめ

以上、伝統音楽の鑑賞と評価の一事例として、能研究の視点を踏まえ、能「藤戸」の鑑賞の学習評価のためのワークシートの開発を試みた。音楽をはじめとした芸術や芸能の理解度を言語や数値だけで評価することは難しい。ましてや伝統音楽となると、日常的に観

たり聴いたりする機会がないため、印象や感想を顕現し伝える術が画一的であると戸惑う児童や教員も少なくないを考える。そこで今回作成したワークシートでは、言葉にすることが難しい感情や感動を、絵でも表現することを可能にすることで教師による評価の対象を広げた、多面的・多角的な評価の在り方の可能性を示唆できたと考える。

注・文献

- ¹ 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 音楽編』東洋館出版社，2018 年，8 頁。
- ² 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』東洋館出版社，2018 年，23 頁。
- ³ 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成 31 年 1 月 21 日）
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/1415602_1_1_1.pdf，4-5 頁。
- ⁴ 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社，2018 年，93 頁。
- ⁵ 同書，94 頁。
- ⁶ 田村にしき「能の学習プログラムの開発及び実践－宮城県大崎市大貫地区に伝わる「春藤流」の謡を核として－」『音楽教育学』第 47 巻第 2 号，2018 年，1-12 頁。
- ⁷ 中央教育審議会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成 28 年 12 月 12 日），
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf，166 頁。
- ⁸ 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』，前掲書，121-122 頁。
- ⁹ 同書，123 頁。
- ¹⁰ 同上。
- ¹¹ 同書，126 頁。
- ¹² 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 音楽編』，前掲書，128 頁。
- ¹³ 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』，前掲書，127 頁。
- ¹⁴ 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 音楽編』，前掲書，135 頁。